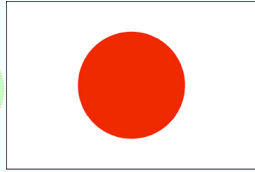


# アミーゴ会だより

2011年4月  
(メルマガを改題)  
No. 6: 2011-II



発行人：上原尚剛  
編集長：渡辺道雄  
編集人：河嶋正之  
事務局：関口重雄

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興の日が来ることをお祈り申し上げます。

メキシコ・日本アミーゴ会

## Hotel Nikko 物語 (1)

メキシコ・日本アミーゴ会  
副会長 玉置修一郎

今回は、幹事さんのご依頼により、アミーゴ会の多くの方々がご存知の、メキシコシティにある Hotel Nikko, Mexico (HNM) についての“物語”をお伝えしたいと思います。それにつけても思い出すのは、後ほど触れますが、このホテルが建設中の 1985 年のメキシコ大地震です。この度の東北関東大震災で会員の皆様、または、ご関係の方々に影響はございませんでしたでしょうか。お見舞い申します。



さて、筆者の私（アミーゴ会副会長：元日本興業銀行→日墨ホテル投資）は、このホテルの成り立ちと経営に、当初より長年に亘り関係してきましたが、私が関与して今年で丁度 30 年が過ぎました。この間、其の歴史には種々紆余曲折とそれなりの苦労がありましたが、結論的に申し上げると、両国の多くの方々に支えられた極めてラッキー且つハッピープロジェクトで、お陰で、本アミーゴ会発足の母体となりえた事を誠に誇りに思っております。因みに、本アミーゴ会の事務局長の関口さんも、長年 HNM に関与された功労者の一人です。

それは 1980 年 1 月の事でした。当時私は興銀ニューヨーク支店にいましたが、某日、頭取の池浦から電話があり、メキシコへ行くので来いと指示を受け、初めて訪墨したのがメキシコとの係わり合いの始まりでした。長年の NY 勤務でしたが、メキシコはロス支店の管轄で全くの初めてでした。時あたかも 1978 年のイラン革命を契機に第 2 次エネルギー危機の只中、日本のメキシコへの石油外交が活発化した年で、そうした中での訪墨ミッションでした。ロペス・ポルティエヨ大統領との会談で、日墨友好のシンボルとして、日本のサービスが味わえるホテルを、日本の資金で建設して欲しいとの要請を受けたのが、忘れもしない 1 月 20 日でした。

1980 年 3 月に NY から帰国し、早速プロジェクトの組成に掛かりました。先ず、プロジェクトのパートナーとして、1979 年よりバンクーバー経由でメキシコシティに直行便を飛ばし始めた日本航空の朝田社長にお会いし協力を要請、当時 JAL ホテルの運営会社であった日航開発の支援を得る事になりました。4 月に訪墨し、メキシコ外務省からの指示で、当時高齢ながら隠然たる勢力を持っておられたミゲール・アレマン元大統領が主宰する“Concejo Nacional Turismo”（国家観光審議会）と相談する事になりました。ところが、これが苦労の始まりでした。

当時のメキシコは、ホテル業への外国資本の参入は、合弁で且つ 49% 以下のマイノリティーの下、観光局が取り仕切るという事で、元大統領殿は、合弁パートナーも、又最も重要なホテルサイトの選定も任せなさいとの事。これが大問題でした。推薦されたパートナーは兎も角、ホテルの候補地については、表現は悪いのですが、正に利権と思惑の案件ばかりでした。メキシコ事情に疎い私に、大統領の任期終了間際のプロジェクトに危惧を表明される方ばかりでした。こうした中 6 月に再度サイト探しに訪墨した際、幸運にも、現在の HNM の土地の地主に巡り合いました。土地 3,000 坪余は El Presidente Hotel（現 Intercontinental Hotel）に隣接し、アレマン時代の大蔵大臣ラモン・ベテータの未亡人の邸宅で、オーナーはその邸宅の売却に動意ありとの事でした。チャプルテペクの一等地でした。ベテータ未亡人が売却を最終的に同意するまで、其の年の 12 月迄、約半年掛かりました。正に滑ったの転んだのと振り回されましたが、インテリの夫人は、当時のペソ切り下げ前のメキシコ経済動向（メキシコが大産油国になる前は 13.5 ペソ/\$ で安定していたものが、1980 年末には 22 ペソ/\$）を勘案し、当方の説得に応じたものでした。年明けて 1981 年 2 月初め、夫人との最終契約のため訪墨した時のエピソードは私にとって忘れられないものとなりました。

### = 目次 =

1. Hotel Nikko 物語(1)	...1
2. “ガンバレ・ニッポン” ーメキシコでの連帯活動の報告	...2
3. クエルナバカ短期滞在& ホームステイのお勧め	...4
4. アペルーサ：命運を切り開いた男... ドン・ロドリゴのお話し	...5
5. 活動報告・経済トピックス	...7

土地の契約も終わり、観光大臣への報告と挨拶に観光省に出掛けた時の事です。皆様の中にはご存知の方も多いと思いますが、何時も通訳をお願いしていた Jorge Ito 氏 (Mitsui & Co., Mexico) と出掛け、Rosa Luz Alegría 大臣のお出ましを待っていました。大臣が現れるや、Jorge が顔色をかえて小声で大臣の服装を見ろと囁きましたが、私には当初何のことやら不明でした。すぐそれがメキシコの国旗の三色で出来た素晴らしいワンピースである事が判明しました。メキシコの“旗”を纏った大臣は、私の挨拶（土地の取得と今後の協力依頼）に対して極めてクールに、「チャプルテペックの土地を取得されたとの事だが、買うのは勝手だ。但し、そこにホテルの建設を許可するかどうかは私の権限だ。あの土地は私のホテル (El Presidente は大臣所管の Fonatur=観光基金の所有) の隣接地で私のものだ。エルブレの Annex を建てる」と言い残し、早々と退席。驚いて観光省を出た Jorge と私は、其の足でただちに、Julio Moctezuma 氏のオフィスに直行、事の次第を直訴しました。Moctezuma 氏は、大蔵大臣時代から興銀と親しく、ホテル問題に付いても良き相談相手でした。ロペス・ポルティエーヨ大統領と極めて近い同氏は、ただちに、大統領に最も可愛がられた大臣の暴走を止めさせるべく大統領に会う、との事で安堵したものです。

効果観面、翌日興銀事務所に観光省より、再度来訪されたいとの連絡が入り Jorge と出掛けました。見違える様なツーピースのドレス姿の大臣が、前日とは打って変わって、にこにこ顔で何事も無かったが如く、「ホテル建設に当たって全面的に協力したい」と、流暢な英語での“所信”表明を頂きました。後刻 Jorge の解説では、Mexican Flag のドレスは Nationalism の表現であった様です。その後の来日時も含め数度お会いしましたが、実に気位の高い美女でした。

土地の確保、観光省の Go-Sign も得て、漸く日本側の投資会社 (日墨ホテル投資(株): JAMEX) の設立、計画書の詰めに進んだのは、1981 年 5 月のことでした。幸い、当時の日墨関係への期待にも支えられ、謂わば、オール日本で、各界を代表する企業 56 社の出資を得て、6 月に JAMEX が発足しました。メキシコとの関係強化に前向きな経団連のお墨付きも得て、本邦を代表する製造業、商社、金融界が株主として名を連ね、初代社長に JAL の朝田氏が就任されました。合弁の相方は、Moctezuma 氏の尽力により、メキシコ国営の地域開発銀行である Somex が選ばれ、その年の末まで双方で計画の詰めがなされました。

基本構想は、750 室の大ホテルを予算 300 億円 (\$ 150 million / 1 \$ = 200 円時代) で建設すると言うものでした。この間、大林組にホテルの基本設計を依頼すると同時に、資金調達に就き、日本の公的機関である経済協力基金 (OECF/現 JBIC) の協力を仰ぐべく、池浦の意向を受けて動き回り、私は多忙を極めていました。OECF との話し合いが、暗礁に乗り上げていた年明けて 1982 年 2 月、メキシコで異変が起きました。ペソの大幅切り下げでした (2011 年 4 月記)。(以下次号)

## “ガンバレ・ニッポン” —メキシコでの連帯活動の報告

「ガンバレ・ニッポン」を合い言葉に、メキシコではいま様々な支援と連帯の活動が広がっています。編集部にこれまで寄せられたメキシコからの報告を掲載します。両国民の草の根の絆がいつそう深まることを確信します。

### 被災者と連帯するマラソン・コンサート

会員(在メキシコ市) 黒沼ユリ子/黒沼俊子

日本のみなさまへ メキシコより (3月22日受信)

このたびの日本の地震による被災者のためにメキシコの音楽家が立ち上がりました。

1985 年のメキシコ大地震のときには、アカデミア・ユリコ・クロヌマの 12 人の生徒が第 1 回「日本メキシコ友好コンサート」で日本を初訪問し、全国各地で日本の子供と友好を深めた直後の大災害だったので、黒沼ユリ子のもとに多数の方々から多額の寄付が集まり、在日メキシコ大使館にお届けしました。

こんどはそのお返しです。このコンサートが大成功して、日本の地震の被害者にメキシコの音楽家たちの連帯と支援の心が届くよう、ご支援をお願いします。お知り合いのメキシコ人にこのニュースを広めていただけましたら幸いです。とり急ぎお知らせとお願いまで。

\*編集部注: 在日メキシコ人協会のホームページに掲載を要請しました。

……………:México-Hoy por Japón:……………

日本のみな様へ

メキシコ人の音楽家による 3 月 27 日のマラソン・コンサートは無事に大成功裡に終了しましたのでお知らせします。3 月 28 日付毎日新聞夕刊の囲み記事、読売新聞 29 日付朝刊 (国際面) に、記事と写真が掲載され

ました。ウェブサイトでもご覧になれます。

マラソン・コンサートは快晴の朝 11 時から、紫色のハカラダの花が満開の国立芸術センターの広大な敷地の中にあるコンサート・ホールで黒沼ユリ子とアカデミア・ユリコ・クロヌマの生徒 25 名の演奏で始まりました。朝からの入場者は 200 人ほどでしたが、トリを務めた青年オーケストラと一緒にチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を演奏したアドリアン・ユストゥスが

演奏した時には約 800 席のホールは超満員で、入場出来ない人の列が 300 人を超えました。

アドリアン・ユストゥスはアンコールの前に、日本のみなさんを想う感動的なスピーチをしました。また、コンサートの途中、2 回にわたってホールの大壁面に鎮魂ミサ曲を流しながらゆっくりと映写されたメキシコの子供のあどけない絵には、「わたしたちが日本の子供たちを助けに行くから、待っててね」とか「ぼくたちが応援しているから、元気を出して!!」というようなメッセージが添えられていて、客席は深い共感と感動でハンカチで目頭を拭う人が多くいました。



9 時間におよぶコンサートは無料で行われましたが、義捐金は日本円にして約 50 万円が集まり、その場で日本大使館に渡されました。地下鉄が全区間 30 円弱のメキシコの庶民にとってはこの額は大きなものです。無料で素晴らしい音楽を堪能した人たちの、日本のみなさまへの連帯と激励の拍手は長く続き、外に出た時にはもう暗闇に包まれていました。



このコンサートを成功させた裏には、コーディネーターの黒沼ユリ子と作曲家のホルヘ・コルドバ氏（彼はアカデミア・ユリコ・クロヌマの生徒と一緒に日本への友好コンサート・ツアーに参加して、すっかり日本に魅せられた一人です）、そしてアカデミア・ユリコ・クロヌマの顧問弁護士を務めるマルガリータ女史と彼女が率いるボランティアの若者たちの、不眠不休の献身的な素晴らしいサポートがありました。

まずはメキシコから速報をお送りします。 (了)  
(4月1日受信)

## 日墨協会の支援活動

会員(在メキシコ市) 橋本紘二

我々も NHK の News を毎日みています。あまりの大災害で驚いています。

日墨協会を通じての募金運動を報告します。

○日墨協会の義捐金のための特別口座：本日現在約 250 万ペソが集まっております。まだ進行中で 300 万ペソ以上は入金されるはず。地方の日系団体は別に募集を行っています。集まり次第、日墨協会の特別口座に振り

込まれる予定です。

○日墨協会婦人部の募金活動：50 万ペソ集めるべく動いています。

○銀嶺会、アルマンド・マンサネロ、スサナ・サバレテ合同チャリティショー：4 月 10 日にリセオ(日墨学院)講堂で開催。入場料は一人 500 ペソ。

その他に小さな募金運動はいろいろな場所でおこなわれておりますが実態は現時点では不明です。 (了)

(4月2日受信)

### \* 日墨協会収集の連帯活動一覧 \*

#### Lista de Eventos de Apoyo a Japón

Fecha 期日	Hora 時間	Nombre イベント名	Dirección 実施場所	Organizador 主催者名	otros datos pertinentes 備考
19 de marzo	11:00	Tlalpan Unido con Japón	Explanada de la Del. Tlalpan	Delegación Tlalpan	Colecta pública y globos. (Mas de un millón de pesos donados a traves de la cuenta de la
19 de marzo	19:00	Un origami para Japón	Paseo de la Reforma 395 (Enfrente de la Embajada de Japón)	Lets Bonus	Elaboración de 1000 gruas como mensaje de apoyo a Japón y donativos
24 de marzo	-	Bingo en apoyo de Japón	Mexicali	La Asociación Japonesa de Mexicali	Recaudación de donativos
26,27 de marzo	10:00-19:00 10:00-16:00	Bazar	San Luis Potosi 173, Col. Roma,	MIKASA	Recaudación de donativos
27 de marzo	11:00	-	-	Liga Nisei de Boliche	Torneo relámpago
27 de marzo	18:30	Solidarios con Japón (Concierto de Jazz)	Teatro Benito Juárez en Ensenada	Asociación Japonesa de Ensenada A.C.	EL costo de entrada(100 pesos) ser á donado a traves de la cuenta de la Asociación
27 de marzo	08:00-10:30	-	Av. Conscripto y Periférico	Federación Mexicana de Kendo	-
27 de marzo	11:00-20:00	Concierto "Solidaridad Con Japón"	Sala "Blas Galindo" Centro Nacional de Las Artes	Academia Yuriko Kuronuma	Donativo voluntario
27 de marzo	12:00	Pro Japón	Fujiyama 144 Col.Aguilas	Asociación México Japonesa	Concierto para recaudar donativos
29 de marzo ~	11:00	Voces por Japón	Rueda de prensa en el Hotel Nikko (CDs en venta en tiendas como Mixup)	Varias Artistas Mexicanas de compañías discográficas (Sony Music, EMI Music y Ocesa Seitrack)	Recaudación de donativos a través de Venta de CDs (99 pesos, en venta en tiendas como Mixup)
30 de marzo	14:30 y 15:30	Curso de Idioma Japonés en el TEC de Monterrey (Campus Ciudad de México) para apoyar a Japón	Calle del puente 222, D.F.	TEC de Monterrey	Recaudación de donativos a través de cursos de idioma japonés
30 de marzo	-	Primero Vamos Juntos	Cozumel	Primero Vamos Juntos	Recaudación de donativos
31 de marzo	20:30	Concierto "Japón Vive, Vive Japón"	Sala "Nezahualcóyotl" Centro Cultural Universitario, UNAM	Maestro Horacio Franco	Recaudación de donativos (300, 400 o 500 pesos) será entregados
1 de abril	12:00	UNÁMonos en un deseo por Japón	Corredor entre la Facultad de Arquitectura y la Biblioteca Central	Comunidad de UNAM	Elaboración de 1000 gruas como mensaje de apoyo a Japón
2 de abril	22:00	Boxeo entre Edgar Sosa y Kenichi Horikawa. Por confirmar	Cuzco 872, Col. Lindavista	WBC México	1 dolar por boleto donado
6 de abril	20:00	Concierto "All is One"	Hard Rock Cafe en Polanco (calle de Campos Eliseos)	Hard Rock Cafe Internacional	Por confirmar: 200 pesos del costo de cada entrada será entregada a cruz roja
10 de abril	17:00	Concierto "Japón Te Necesita"	Auditorio del Liceo Mexicano Japonés, A.C.	Ginrei Kai y el show de Armando Manzanero y Susana Zabaleta	Recaudación de donativos
10 de abril	12:00	Misa	Antigua Basílica de Guadalupe	Arq. Alfonso Murai	Misa
hasta 11 de abril	-	Con Japón de Corazón	Universidad de Colima	Comunidad de la Universidad de Colima	Recaudación de donativos
sin fecha	-	Apertura de la cuenta "Por Japón"	Bldv. Manuel Avila Camacho 647	Fundación Walmart	Recaudación de donativos
sin fecha	-	Colecta Económica "Apoyemos a Japón"	Camino a Santa Teresa 1500	Liceo Mexicano Japonés	Recaudación de donativos
sin fecha	-	Fondo de Socorro, terremoto Japón	Universidad de Guanajuato	Estudiantes de la Universidad de Guanajuato	Recaudación de donativos
sin fecha	-	Solidaridad con el pueblo Japonés	Instituto de Intercambio Cultural México Japonés de Guadalajara A.C.	Instituto de Intercambio Cultural México Japonés de Guadalajara A.C.	Recaudación de donativos
sin fecha	-	-	Norte 182 No. 660	Agencias Aduanales Alianzas, S.A.	Recaudación de donativos

## クエルナバカ短期滞在 & ホームステイのおすすめ

世界各地でロングステイライフブームが起きていた時、メキシコの実情調査をと思い、メキシコシティで語学学校を運営されている広瀬さんのご協力を得ながら、2008年7月に一ヶ月間クエルナバカでホームステイをしました。昼間は彼の経営する語学学校でスペイン語の



語学研修と市内のホームステイ受け入れ先宅を何軒か訪問したり、スーパーで日用品や食料品の種類や値段のチェックをしたり、週末や夕食後は受け入れ家族との団らんの中からメキシコの家族と

それぞれの文化や習慣の違いなど興味あることについて話が尽きない日々をすごしました。一ヶ月の間に今まで知らなかった生活習慣やお国柄に触れ、ホストファミリーがとても素晴らしい家族だったこともあり、メキシコがより好きになりました。日本にも、もっとホームステイの輪が広がったら、それぞれの文化の理解が深くなるのにと、言葉の壁があるとはいえ、ちょっと残念な気がします。

### 観光旅行とちょっと違う海外に暮らすという観点から。

クエルナバカには語学研修のための外国人学生を受け入れる家庭は少なからず存在します。家庭環境は日本よりも整っている家庭が多い。インターネットがいつでも使えるようになってきている書斎がある家もあった。数カ国からの学生が共同で生活している家庭、子供が使っていた部屋を1-2部屋提供している家庭、学生だけでなく大学の研究者(教授など)を受け入れている家庭など。母国語以外は話さないという家族や、家族のだれかが英語を話せるかなどは、事前に調べなければ入居後困ることも考えられる。滞在費は平均1泊2食付きで30USドル位が相場。シニア層を受け入れ可能かとの質問にYESと答えた家族は少なかった。

そこでシニア層が暮らせる賃貸物件も数件調査。



こちらは大型ショッピングモールに歩いて行かれる場所を探して部屋を見せてもらったが、1LDK、2LDKで、月額600-700USドルくらいの相場。ここクエルナバカは常春の地と呼ばれるほど気候温暖であるため、メキシコシティから週末ゴルフやスポーツ施設で休暇を楽しむ人々が多いことで知られているが、距離的にもシティから車で約一時間というのが何かと便利に思えた。シティの国際空港からも直通バスがある。

日本から出かける場合、2-3か月の滞在計画を立てれば、航空運賃をカバーできるくらいの海外生活が可能かと思うので是非、冬場暖かいメキシコで過ごすことをお勧めしたい。

食料品店の棚にはアジアコーナーがあり、カレールーやラーメン、豆腐などを備えているところもあったが、日本食についてはやはりメキシコシティのレストランに行かれることをお勧めしたい。しかし、メキシコ料理

幹事 石井あけみ (メキシコ観光)

やシーフードなどはホテルのレストランも含めてとてもおいしく、同じレストランに何度か足を運んだ。

### ホストファミリーについて

滞在した家庭は今までも何人か日本人を受け入れていたこともあり、日本という国にも日本人にもとても理解があった。ドクターと奥様の二人家庭ではあったが毎朝息子さんが二人の孫を預けに来るので、いつも賑やか。何よりもうれしかったのは、奥様が料理上手で毎日の昼ごはんが楽しみになり、メニューを一ヶ月分きちんと記録したほどに多彩なメキシコ料理をいただいた。日曜日には奥様だけ教会に出かけるので、私もおともしてミサに預かるがちょっと陽気な聖歌がユニークだったのと、教会の周囲が朝市のように賑やかだったのが印象的。よく、昔のメキシコの話がされたが、日本でも父母や祖母が昔の話をするように、なかなか興味深い話であった。



雨期だったせいもあり、夕方には雷とスコールでよく停電したが、メキシコシティとはそう遠くないのに、通信事情が悪く、停電と同時に携帯電話もしょっちゅう障害があったのが残念なこと。知人に会うため、2度、長距離でタクシーを利用したが、こちらは無線タクシーなので、長距離といえども安心して利用できた。



クエルナバカには日本に短期留学をしたモレーロス大学の学生たちも少なからずおり、日本人のために何か役立つことをしたいと考えているので(同大学は大阪府箕面市との文化交流が盛ん)、観光ではなく余暇を利用して海外に暮らす実体験をお勧めしたい。

すでに3年近く経過していることもあり、物価や家賃相場が変わっていることもかんがえられますのでご容赦ください。(了)

\*写真は教室/コルテス宮殿/ホームステイ先/夜の街頭/カテドラル。

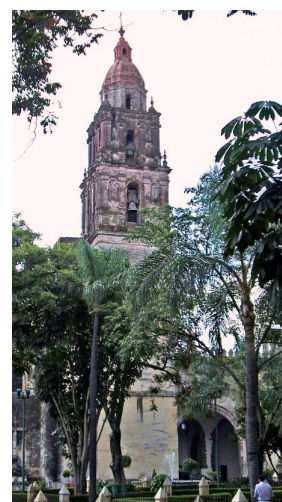
\*学校は Sociedad Intercultural, S.C.。ウェブは [www.si-sc.com](http://www.si-sc.com)。

メキシコ観光(PASELA)で取り扱い中。

(<http://www.pasela.mexicokanko.co.jp/>)

\*参考: アジアコーナーの日本食品価格 (2008年夏調査事例)

ハウスカレー	1個	\$26.50
ビーフシチュウ	1個	\$29.90
レトルトカレー	1個	\$31.40
イカの缶詰	1個	\$26.70
春雨	1袋	\$33.90
ノリ 現地産	1袋	\$22.70
天ぷら粉	1袋	\$27.50
醤油 マギー	1本	\$19.40
豆腐	1箱	\$14.90



## アベルーサ：命運を切り開いた男ドン・ロドリゴのお話し

「それでも地球は動く！」とつぶやいたのはローマ教皇庁宗教裁判の被告席の「ガレリオ・ガリレイ」でした。それまで二世紀に顕われた博物の天才「プトレマイオス」が唱えた「天動説」が固く信じられ、ローマ・カトリック宗是となっていたからです。また、『ハムレット、マクベス、リア王、ヴェニス商人』等の戯曲、「人間は一度しか死ぬ事はできない！」など数々の名言を世に残した、イギリスが生んだ稀代の劇作家「ウィリアム・シェークスピア」。さらに、今回の主人公ドン・ロドリゴと後に徳川家康の仲介で運命の邂逅をするもう一人のウィリアム、「ウィリアム・アダムス（三浦按針）。そしてドン・ロドリゴこと「ロドリゴ・デ・ヴィヴェロ・イ・アベルーサ」はヌエヴァ・エスパーニャ生まれのメキシコ人として、日本と初めての歴史的な交流を持つ事になる人物でした。この4人の男はルネッサンスの巨星ミケランジェロ・ブオナローティが没した1564年にこの世に生を受けています。

400年前、1609年にフィリピンからの帰路、房総沖で暴風雨に遭い、御宿の海女さんたちに助けられた故事は多くの解説がありますので、ここでは「ドン・ロドリゴ」に焦点を絞ってお話することにします。

### ドン・ロドリゴ：破綻万丈のアベルーサ

スペインのオルメドで荘園経営をしていた祖父のロドリゴ・デ・ヴィヴェロ・イ・グスマン。彼の息子ロドリゴ・デ・ヴィヴェロ・イ・ヴェラスコは母の兄（伯父）に当たるドン・ルイス・デ・ヴェラスコ（二代目ヌエヴァ・エスパーニャ副王）を頼ってメキシコへ渡り、そこで広大な荘園を所有するヴァリエンテ家の若き未亡人メルチョーラ・デ・アベルーサ・イ・ペジセールヴィウダ・デ・アロンソ・ヴァリエンテと結婚して、二人の間に三代目ドン・ロドリゴはプエブラの“テカマチャルコ”で生まれます。

(\*注：当時の人物の名前は長くて煩雑なのですが、正確を期するため出来るだけ文献に添った表記にします。ドン・ロドリゴ・デ・ヴィヴェロは祖父の代から三代同じ名前、母方の実家の姓を付けないと爺ちゃんか、孫か区別がつかないのですが、この稿でのドン・ロドリゴは三代目「アベルーサ」とします。)

彼アベルーサは幼少時代、エスパーニャ本国で教育を受けて成長、利発だったことからフェリペ二世（カトリック聖地奪還を果したイサベラ、フェルナンド両王の曾孫。祖父のフィリップ美公子の名を継いで“フェリペ二世”。また、彼は天正遣欧少年使節の接見もしている。）の4番目の妻で次代国王フェリペ三世の生母となる「アナ・デ・オーストリア王妃」の小姓を勤めていたこともあり、後にフェリペ三世に重用されることとなります。

クリオージョである彼は生国のヌエヴァ・エスパーニャ（メキシコ）に戻り、大伯父の二代目副王ドン・ルイス・デ・ヴェラスコの許、サンファン・デ・ウルア要塞守備隊長兼市長、タスコ市長（銀の大産出地）、ヌエヴァ・ヴィスカヤ地方長官（これも銀が豊富に採れるメヒコ北部のサカテカス、チワワ、ドゥランゴ、シナロア、ソノラ、コアウィラ州にまたがる広大な一帯）、そして1608年、ヌエヴァ・エスパーニャの直轄領であったフィリピンにペドロ・ブラヴォー・デ・アクーニャ総督の死

アミーゴ会 メキシコ代表 遠藤滋哉  
去を受けてマニラへ臨時総督として派遣されます。在任中、官吏としても有能だった彼はマニラで起きた日本人暴徒の叛乱を鎮圧して、捕らえた日本人を故国へ送還して、寛大な処置に感服した家康から航海の非常時に日本寄港を許す旨の“朱印状”を受けていました。

(\*注：1500人とも。関が原合戦に敗れた西軍の武士たちが大挙東南アジアへ新天地を求めて逃れていったと謂われています。)

そして任期を終えてアカプルコへ向けて帰国の途上、1609年9月、運命の日に、大嵐に遭った彼の乗船サン・フランシスコ号は浦賀の港を目指したのです。

### 大航海とマニラ航路：黄金と香辛料を求める海路

ここで話は少し逸れますが、この時代の背景に触れません。14～17世紀、ヨーロッパに華開いたルネッサンスの時代に画期的な発明、発見がなされます。特に火薬と羅針盤の発明は後に大航海時代と呼ばれる時代を開き、ヨーロッパの宗教と覇権争いに拍車をかけます。いち早くイスラム教徒のモーロ人（ムーア人）を国外に追放して国内紛争を解決したポルトガルのジョアン一世の王子エンリケ（航海王子）は当時開発された逆風でも前進が可能な「キャラベル船」を駆使して、勇気ある部下たちを育て、当時“不帰の岬”と恐れられていた「ボジャドール岬」を踏破して、さらにアフリカの先端を越えて、インドへ到達する航路を開拓する道を開きました。世界史の教科書にも表われる「ヴァスコ・ダ・ガマによる喜望峰を経るインド航路」の発見です。

(\*注：ボジャドール岬=カナリア諸島の南240kmほどにあり、海が奈落の底に落ち込み、白人が黒人になってしまう灼熱地獄があると信じられていて、当時の船乗りたちは恐怖から以遠の航海が出来ず、またしようとしなかった。)

遅れをとったスペインのイサベラ女王はグラナダを奪還した1492年、コロンブスに西回りインドへの道に命運を託したのです。

それまで香辛料は産地のアジアから転々と海路と陸路で“アラブ商人”により運ばれ、アレキサンドリア（エジプトの交易港）、地中海を経てヴェネツィアの“ヴェニス商人”により販売が独占されて極めて高価でした。インド航路の確立で香辛料の交易が海運により可能になりました。

以後、黄金と香辛料を求める領土獲得の争いは止まるどころを知らず、ついにポルトガル、スペイン両国はローマ教皇の仲介を得て1494年、「トルデジャリス（マドリッド北方の街）条約（大西洋の子午線で東西に利権を分ける協定）」を結びます。さらに1529年、「サラゴサ条約」を経て、大航海時代の両国の争いはスペイン王フェリペ二世が1581年にポルトガル王を兼任するまで続くのです。

ここで重要となる富の象徴「黄金と香辛料」ですが、マルコ・ポーロが著わした『東方見聞録』による東洋の果ての「黄金の国ジパング」に馳せる欲望の夢と憧れは計り知れないものでしたが、西洋人が生きるために必要不可欠であった「香辛料」への執着は、日本人の我々の想像をはるかに超えるものでした。当時香辛料一杯は黄金一杯と同じく高価だったと言います。

ライオンが捕ったシマウマを“胡椒”片手にナイフ・フォークで食べている姿はマンガでしかありえませんが、彼らはそのまま「美味え〜！」と思って生肉を食べているのでしょうか？ どうも、人間の味覚とは違うようです。

学校の教科書での、中世、近世史では「ヨーロッパ人は肉類を美味しく食べるための“胡椒”を必要とした。」と、漠然と習いました。しかし、そんな生易しい理由ではなく、彼らは厳しい冬を生き抜くため、今のように冷蔵が出来なかった時代に傷みやすい魚は無論のこと、肉類の良質を保つさまざまな工夫を施しました。冬は生き物の食料となる草木は枯れてしまい、狩猟は困難です。人間の知恵は、食料を確保するため鳥獣を身近に「家畜化」をしました。そして、冬に備え大量に畜殺した肉類の保存に欠く事が出来ない殺菌と消臭作用が強く、さらに風味と味覚を増す優れたものが「塩と香辛料」でした。この時代に必要とされた「スパイス=香辛料」は“胡椒”も勿論ですが、主に“クローブ（丁子）”と“ニクズク（肉荳蔻=ナツメグ）”で、インドネシア北東のマルク（モルッカ）諸島（ブル島、セラム島）でしか産出しません。

本国に運べば莫大な富を生む“スパイス”。その産地の争奪はキリスト教布教の国是と共にポルトガルとスペインの覇権争いの末、アフリカ南端を経て東回りインド航路を開拓したポルトガルが先んじて征しました。後れを取ったスペインは、コロンブスの新大陸発見から二十余年後の1513年、ヴァスコ・ヌニェス・デ・バルボアがパナマ地峡を越えて初めて太平洋岸に到達。以後、エルナン・コルテス、フランシスコ・ピサロなど野心に燃えた征服者が新大陸を席捲、植民地とし、彼らが本国に送る金銀がスペイン王国を養い、異教徒を排除、改宗させてカトリックを布教する資金源となります。

ところが新大陸には「香辛料」が無かったため、スパイス諸島に固執するスペイン本国は彼らにさらに太平洋の彼方への海路開拓を命じます。1543年にミンダナオ島に到達したルイ・ロペス・デ・ヴィジャロボスが当時のスペイン皇太子（即位してフェリペ二世）の名を冠し、「フィリピン」と命名し、ポルトガルの勢力が及んでいなかった良港「マニラ」をスペインのアジア植民とカトリック布教の拠点としました。しかし、前述二つの条約により権益分割の約束はスペインにとって大西洋と太平洋の二つの大洋を横断するルートは新大陸で船を乗り換え、二年間を要する大航海の難事業でした。その上、ミクロネシアまで島々を伝いながら太平洋を航行する往路は確立したものの、アカプルコへ戻る復路のルートが定まるのはさらに二十余年の歳月を待たねばなりませんでした。

スペイン国王「フェリペ二世」からフィリピン植民化の命を受けたヌエヴァ・エスパーニャ二代目副王ルイス・デ・ヴェラスコ（アベルーサの母方の大伯父）は総司令官ミゲル・ロペス・デ・レガスピと有能な航海士アンドレス・デ・ウルダネッタを派遣、彼らは試行錯誤の末、1565年にルソン島の北から黒潮に乗り日本沿岸を掠めて北太平洋を渡り、カリフォルニアのメンドシノ岬に到達、そこからはカリフォルニア海流を利用してアメリカ西海岸をアカプルコまで南下する新ルートを確立しました。

以来、ガレオン船による交易の「黄金の日々」は、1813年9月14日の勅令により廃止が決定し、最後のガレオン船「マガリャネス号」がメキシコ独立戦争の最中の1815年にアカプルコに入港して幕を閉じるまで約250年続いたのです。

さらに余談ですが、この当時スペイン本国では「ムデハル（イベリア半島生まれのイスラム教徒）」の脅威がくすぶり、700年以上にも及ぶレコンキスタ（再征服）の後、「モリスコ（カトリックに改宗したイスラム教徒）」を国外に追い出す動きが高まって、フェリペ三世の治世下の1609年（アベルーサが御宿に漂着した年）にモリスコ追放の勅令が下ります。追放された27万人にも上るモリスコのほとんどは農民だったため、スペイン本国は深刻な農産物不足に襲われ、産業が衰退、国力が著しく低下します。

そうした時、新大陸やフィリピンからもたらされる富はスペイン王国の生命線となり、インディヘナの労働力は貴重な財産でした。当然屈強な水夫も不足して、ガレオン船の下働きは新大陸のインディヘナが多かったのです。事実、アベルーサの乗船していた“サン・フランシスコ号”には先住民「トラスカラ族」の船員が多数乗船していました。

#### ドン・ロドリゴ：オリサバ伯爵のアベルーサ

さて、数々の幸運に恵まれ、故国ヌエヴァ・エスパーニャに戻った、その後のドン・ロドリゴ・デ・ヴィヴェロ・イ・アベルーサは時に46歳。代替わりした従兄の副王のドン・ルイス・デ・ヴェラスコ・イ・カステージャに日本での出来事を報告して、フィリピンと日本での功労を労われ歓待されます。後に『日本見聞録』を著わしたアベルーサでしたが、数奇な運命で会見をした徳川家康との交渉事項は本国にも報告諮問しました。

一方、サン・フランシスコ号の船長、ファン・セヴィコスと同じく嵐に遭い豊後（大分）臼杵に漂着した僚船サンタ・アナ号の修理を得て、帰還しています。彼の本国への報告書はアベルーサの報告のような前向きなものではなく、積荷が略奪された、日本でのカトリック布教はイエズス会に牛耳られ、スペインの介入の余地が無いなど否定的な内容でした。当時スペイン王国の実権を握っていた執政、レルマ公爵はアベルーサよりもセヴィコスの報告を諒としたため、その後案件は進展せず、1614年の支倉常長の使節も成果を得られずに終わりました。

しかし、施政者、官僚としても有能だったアベルーサは1627年63歳の時、フェリペ三世より「伯爵」を受爵し、オリサバ、プエブラにまたがる広大な領地を与えられ、初代「オリサバ伯爵」と称せられます。メキシコ・シティーのラテン・アメリカ・タワーの横に今も残る名所「タイルの家」は、初代オリサバ伯爵アベルーサと縁があり、彼の妻レオノール・メンドーサとの間に生まれた嫡男ドン・ルイス・デ・ヴィヴェロ・イ・ルナ・イリシオ・デ・メンドーサ二代目伯爵が、23歳で夭折した妻のグラシアーナ・スアレスの財産を相続してオリサバ伯爵家宮殿として後世に残したものです。世界遺産（歴史保存地区）に登録された区域にあり、1614年慶長遣欧使節の支倉常長一行が宿泊したとも伝えられていますが、この当時はまだタイルはありませんでした（タイルの装飾が施されるのは、おおよそ100年ほど後の五代目

伯爵夫人マリア・グラシアーナ・スアレス・デ・メンドーサの時代でした。

このような歴史的な建物が今、「サンボルンス」という（ドラッグ・ストア風の）百貨店になっていて、買い物、食事に誰でもが利用でき、多くの市民に愛される店として現存しているのは驚きです。

また、優れた領主として領民から慕われたアベルーサは彼の死後、領民が悪徳荘園管理者から理不尽な扱いを受けたいよう手を尽くし、処置を講じる遺言を残したとする、高潔高邁な人柄を物語る逸話が伝えられています。

1636年、ドン・ロドリゴ・デ・ヴィヴェロ・イ・アベルーサは自身の領地、オリサバで72歳の波乱万丈の生涯を閉じます。彼の遺骸は生まれ故郷の“天使たちの村”プエブラの「テカマチャルコ」にあるサン・フランシスコ修道院に葬られ、ヴィヴェロ、ヴェラスコ、ペレード、

スアレスの名家の人々の霊と共に400年の悠久の時の中にあります。同じ年、符合したように、支倉常長の主君、奥州の霸王・伊達政宗が他界します（69歳）。不思議な運命に導かれ邂逅した、御宿の恩人、大多喜城主・本多忠朝は1615年大坂夏の陣にて討ち死…（33歳）。1616年家康病没…（73歳）。1632年二代将軍秀忠（お江の夫）病没…（53歳）。波乱の生涯を生きた彼らは来世で何を語り合うのでしょうか…!?。そして、我々に何を語りかけるのでしょうか…!?。

まだまだ一部分なのですが、「ドン・ロドリゴの物語」は今回で幕を閉じる事にします。（了）

編集部注：遠藤会員にはアミーゴ会だより No.4 (2010年10月号)に『メヒコと日本の「絆」・御宿』と題して御宿町友好親善使節団の訪墨受入れ記をご寄稿いただきました。本稿はその際に編集部が玉稿より勝手割愛した「アベルーサ」に関わる記述の再掲をお願いしたものです。改めてお礼を申し上げます。なお、小見出しは編集部が勝手挿入しました。

## メキシコ・日本アミーゴ会の活動報告

事務局長 関口重雄

### 2010年12月～2011年3月の主要活動

- 『アミーゴ会便り』2011年1月号(No.6)発行
  - 第18回メキシコ歴史文化講演会(11年3月4日)  
演題「スペインから独立した社会革命によってメキシコの近代史を思索する」  
講師：中央大学名誉教授 国本伊代氏
  - 京都エルマノス・プロジェクト(高田一恵会員)から協力要請ー西日本地区アミーゴ会と具体化検討中
  - 御宿アミーゴ会の活動
    - 1月 黒沼ユリ子氏と新年会・懇親会(於御宿町)  
会報『エルマーノ』第3号発行
    - 4月 『日本とメキシコの友好400年～未来に向けて』刊行(日本財団助成事業)  
注：編集中の『絆ー日西墨比4カ国交流の新たな100年に向けて』は今回震災により刊行中止(日本財団助成事業)
  - メルマガ配信のうちホームページ掲載の催事案内
    - 12月 メキシコ現代オペラ『原野のさざめき』
    - 1月 アドリアン・ユストウスのヴァイオリンリサイタル(於東京、御宿、名古屋)  
ロレンソ・マイル教授講演会ー演題『19世紀から現在に至るメキシコ政治の発展』  
アレハンドロ・ベラムのピアノリサイタル
    - 2月 東京天理ギャラリーでのメキシコ古代文明展
    - 3月 竹内和重回顧展  
アレグリアメヒコ(蔵野佳好子会員)  
東北太平洋岸沖大震災安否情報サイトの紹介
    - 4月 メキシコ関連TV番組  
メキシコ・ベラクルス州立大学美術造形研究所作家展  
講演会『メキシコにおける事業展開ー成功の秘訣』講師：岩崎 准会員
  - プレミアテキーラの広告(マルコ・ドミンゲス会員経営アガベ社)
  - テキーラパーティの案内(涌井淳子会員経営 Sol Mariachi とマルコ・ドミンゲス会員とのコラボ企画)
- 以上

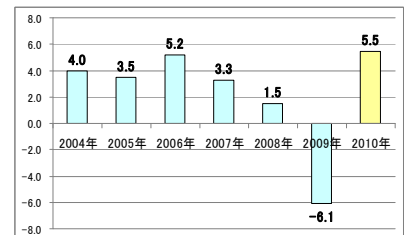
## メキシコ経済トピックス

幹事 河嶋正之

### 2010年経済は5.5%成長

メキシコ経済の2010年実質GDP成長率はプラス5.5%と、政府見通し(当初3%、改定4.5%)を大きく上回った(INEGI:11年2月21日発表)。

メキシコ経済は、08年夏の国際金融危機以降、米国経済の急激な縮小を背景にメキシコの全輸出の80%



を占める対米輸出が急減して経済活動が縮減し、08年にはプラス1.5%に低下、09年には第二次大戦後最悪のマイナス6.1%まで落ち込んでいた。しかし、米国の金融緩和による緩やかな景気回復でメキシコの対米輸出も増加に転じ、メキシコ経済は10年第1四半期には6四半期ぶりに前年同期比プラス4.5%の成長軌道に戻り、その後も7.7%、5.3%、4.6%と4期連続のプラス成長となり、通年では前年の反動として高成長となった。

### 2011年は4%台の成長見通し

メキシコ経済の2011年成長率は、米国景気の上昇判断を背景に今年に入り軒並み上方修正されている。国際

	GDP成長率 (%)	インフレ率 (%)	正規雇用増 (万人)
政府(財務省)①	4.0～5.0	(目標:3.0±1)	(10年:73)
メキシコ銀行②	3.8～4.8	3.0～4.0	60～70
民間アンケート③	4.25	4.07	62.8
Banamex (Citi)④	4.80	3.80	71

通貨基金(IMF)も1月25日、従来の3.9%から4.2%に改定した。なお12年経済についてフェ拉里経済相は

3.9%(2月23日日経)、メキシコ銀行の4月1日発表の23調査機関アンケート③は4.07%、シティグループのBANAMEX銀行④は3.8%、IMFは4.8%を見込んでいる。

メキシコ経済の今後については、対米自動車輸出を中心とする輸出増大傾向の持続と国内民間消費および設備投資の増勢傾向の定着を注視する必要がある。(了)

＝ 編集後記 ＝

今号は“歴史の証人”によるHNM誕生の「秘話」を掲載しました。次号の「証言」を乞ご期待。メキシコからは被災者との多彩な連帯活動を報告載せました。クエルナバカでメキシコ時間を楽しみたいという気持ちとドン・ロドリゴの如く運命を自ら決めねばという気持ちが交錯します。さあ、震災も原発事故も克服しましょう。¡Si. Se Puede! [か]